

4/16(土)まじど、倫理号です。日々コナが有る〜と、陶し、毎日か〜と、  
楽しい事な〜ですか/ネ〜。そなたがお客様に喜んで〜  
か〜一箱!! 草七郎のアホ鳥

2022. 4. 16~4. 22

今週の

倫理

4月のテーマ | 一貫不怠

1277号

「場数を踏む」という言葉があります。「実地に経験する度数を重ねる」(精選版日本国語大辞典)という意味ですが、仕事をやる上では、知識と共に、経験を積んで慣れること、場慣れするという「場数を踏む」事がものをいう場面が数多くあります。

現在は管理職のTさんが、入社して間もない頃のことです。営業部に配属になり、外回りをするようになりました。初めのうちは先輩に付いて出張し、数回後には一人で営業に出ることになりました。

先輩と顧客とのやり取りを傍から見学していた時は、簡単そうに見えたのですが、いざ行なってみると先輩のように丁寧で流暢なやり取りができません。落ち込んで帰社した時は先輩に相談するものの、助言の言葉は意外にも少なく、最後に「何度でも足を運んで顔を合わせる」と念を押すのが常であったといえます。

内心、効率が良くて即効性がある一発逆転の「うまいやり方」を教えてもらえらると思っていたTさんは、がっかりしてしまいました。しかし、それ以外に為すすべもなく、先輩のアドバイス通りに愚直に何度もお客様のもとに通い続けました。

やがて、少しずつですが、相手に合わせた語り口や対話の呼吸等が、感覚的にわかるようになっていきました。先輩の言葉の意味を体感したTさんは、その後、さらに場数を踏んで、年を重ねるごとに営業マンとしての仕事板についてきたのでした。「場数を踏む」という言葉には、(一)「実



## 上達の秘訣は「一日一回」行なうこと!

地に経験すること、(二)「度数を重ねる」という二つの要点があります。

(一)の「実地に経験する」主体は自身に他なりません。いわば、事の「主役」になることが重要なのですが、かつてのTさんのように、楽して「うまいやり方」が降ってくるのを待つような態度、問題を他人事のように捉えているような間は、脇役であって主役とはいえません。

また、(二)の「度数を重ねる」とは、繰り返し返すという事です。そのためには、適度な心の張り、緊張感が求められます。この緊張感を持続させるコツは、自分で決めた無理のない適切な(少し頑張れば達成できるような)目標を設定することにあります。

Tさんの場合は、営業する度に、課題を一つ決め、それをクリアできるように目標を決めていました。そのことが程よい緊張感を保たせてくれたといえます。さらに、顧客のもとに足を運ぶごとに、課題が改善されている手ごたえを肌で実感できたことも、先輩の教えを実践し続けられた要因でした。最後に、Tさんには会社で働く明確な目的がありました。それは至極単純なことなのですが、自社の商品が大好きで、それをお客様に広め、喜んでいただきたいという思いでした。この情熱が、Tさんを支えた根本的な原動力となったのです。

① 主役意識、② 適度な緊張、③ 適切な目標、④ しっかりとした手ごたえ、⑤ 強い目的意識をもって、業務上の目標達成に挑んでいきたいものです。

四月一日

野暮用も序さる事と

明け暮れる